

東村山稲門会ニュース 第 25 号

1 頁、2 頁が欠落

本号をお持ちの方は、

ホームページ担当者までご連絡ください

🍷 園芸の会（第4回）御案内

第3回会合は 3月28日（日）午後、市民センターで藤沢博恭氏（昭29政経）から「さぎ草を育てる」のテーマでお話頂き、実際に球根を鉢に植えつけ方を教わりました。出席者9人。

次回第4回会合は、藤沢博恭氏のご好意でお宅の温室で育てておられる「えびね」他の植物を拝見させて頂くことになりました。ご都合のよい方は幹事の三宅良太（042-394-5298）迄ご連絡下さい。

日時： 4月17日（土）14時

場所： 藤沢様宅（所沢市松が丘2-8-13）

（所沢駅より西武園行バスで 峰の下 下車1分 自転車でも可 八国山北側）

次々回（第5回）会合は今回植えた「さぎ草」の育て具合のご講評・観賞会を催すことになりました。多数ご参加下さい。

日時： 8月 1日（日）14時から

場所： 東村山市民センター別館2階会議室（予定）

問合わせ先 三宅良太（042-394-5298）

☆ 今回の「さぎ草」球根の植込みの実技指導は初めての試みとして注目しており、取材を兼ねて参加しました。藤沢さんの丁寧な植込み方の説明の後、藤沢さんが用意された「鉢」、鉢の底部に敷き水捌けを良くする為の粒の揃った日向土（軽石）適量、球根の根を張らせる水苔（すぐ使えるように水でもどしてあった）適量と、球根7粒が参加者全員に配られ植込み作業に入った。

8月にそれぞれの作品を持寄ることになり、筆者は球根をふた鉢に分けることにして翌日材料の手配をした。ひとつ楽しみが増えたことを講師の藤沢さん、幹事の三宅さんに感謝したい。

（編集子）

🍷 ゴルフ同好会

○ 第5回会長杯まであと2週間！

4月18日（日）埼玉ゴルフクラブ（毛呂山）で開催予定の第5回会長杯コンペに、現在18名の方から参加申し込みを頂いております。

あと3名の枠が空いています。稲門会会員の皆さん、或いはご家族、知人、友人の方などなくても結構ですので、参加ご希望の方は下記の幹事役まで申し込みをしてみてください。なお、定員に達し次第締め切らせていただきますのでご承知置き下さい。

参加される方には、間もなく大会要項をお送りいたしますのでよろしく。

幹事役 当間 昭 治 （391）6023

幹事役 木 谷 肇 （391）3301

◎知っ得ゴルフ

13番ホール — 用語解説 —

「フェース、フェース」と課長に言われてバンカーの中のM君、何を勘違いしたのか自分の顔をねじ曲げて肩にあごを埋める仕草。更に「もっと開け、開くんだよ。」に、今度は踏ん張っていた両足を更に開いて股裂き状態に・・・。「クラブフェースを開いて打て」の見事な解釈に居合わせた筆者のフェースがクローズ。ほんとにあった話です。

ゴルフの規則集も「用語の定義」が48項目に亘り「規則」の前に載っています。用語の意味を知らなければルールも理解出来ませんよあなた。

「ラフが深いからチンをグッと引いて、アップライトに力強くスウィングしてお客さん。」

（井 垣）

新宿副都心から奥多摩の山々まで

東京を一望・大パノラマを楽しもう

3月のニュースでお知らせしました「山とハイキングの会」の第一回目の行事として下記のような計画を立てました。皆さまお誘い合わせのうえ是非ご参加下さい。

土橋・小亀で3月17日に下見を行ない、小学生高学年のお子さまでも歩けることを確認しておりますので、ご家族でおいで下さい。稲門会員以外の方の参加も歓迎しますので、知り合いの方にも声をかけてください。

記

1. 実施期日 平成11年4月24日(土)
2. 行き先 秩父 顔振峠
3. 参加費 一人300円(保険代・写真代等)
*交通費は自己負担(東村山から片道390円)
4. 集合場所・時間 所沢駅5番線ホーム進行方向前方 午前9時
9時7分発の快速急行を利用します。(吾野駅下車)
所沢駅までは次の電車をご利用なさると便利です
参考 8時49分久米川発本川越行き
8時51分東村山発本川越行き
5. 歩行距離 12.3キロメートル(約3時間40分)
6. 持ち物 弁当・飲み物・雨具・敷物・ゴミ袋等
昼食場所の峠には、食堂・土産品店があります。
7. 参加申し込み 4月15日までに下記幹事宛電話でお申し込み下さい
参加者には別途地図等をお送り致します

申し込み 問い合わせは 土橋 393-5708・小亀 394-6951・久保 396-4577

雨天の場合は中止しますが、参加予定者には前日に連絡いたします

編集後記

春の訪れと共に紙面が賑わって来ました。戦時の古傷の左膝関節が陽気の変わり目毎に痛む他は体調が齢のわりには良く市内・外の各種団体に参加・協力しておりますが、中でも稲門会は会員のレベルが高いことでは最右翼です。この際立った特徴がどう生かされるのかが今後の課題となりましょうがボケること無くその結果を見届けたいものです。幸い若手に出色の人物が多数居られて会の将来は保障されております。その次の世代を考えるのは老婆心ならぬ老爺心と笑われそうですが、拠点が根を張る今の時期の大切さが身に沁みます。未加入者の受入れ態勢を一層整えたいものです。(塩 見)

昭和37年文学部卒

昭和38年国語国文学専攻科終了
の福田 晃さんから寄稿がありました。

現在柘植大学第一高等学校の教頭をされており、掲載文は校内新聞に青少年教育に対する熱情が溢れており、その見識の高さに編集子は感動しました。
是非ご一読下さい。

今教師は何をなすべきか

急がれる教師の使命とは

教頭 福田 晃

(一) 成人式の講演で早大吉祥寺で教師が生徒に学問を授けるのは、当然のことであるし、将来の進路を助言するのも教師の役目である。一方、生徒のよ

り望ましい人格形成を養成するのには、一段と努力しなければならぬのも教師の使命である。ところが、昨今受験競争に係わる学問だけが優先し、学校での人間教育があまりにも手抜きになつてゐるのを危惧する。小学校の学級崩壊、小中高でのいじめ、校内暴力、薬物汚染、自殺、あるいは、大学キャンパスでの学生の授業態度の悪さ等々、枚挙にいとまがない。子供達は忍耐力を失ひ、自ら解決する努力をせず困難から逃避し、

安易に学校を退学してしまう。去る一月十五日の成人式で、講演を依頼された早大吉祥寺教授が、激怒された一件での若者の態度の悪さは、驚き呆れるというよりも悲しくなつてしまふ。仙台市で開かれた成人式の記念講演で、あの温厚な吉村教授が若者のあまりのマナーの悪さに腹を立てられたのである。教授の話が始まつても大声で話したり、あたり構わず携帯電話で話す。さらには、テレビ画面に大寫しになった和服姿の女性までもが、これ見よがしに頻繁に会場に出入りをする。中には、演壇に近寄つて記念写真を撮つたりする者まで居るのだ。そういう中で、教授は我慢をなさながら講演を続けられたが、すごい忍耐力だと思ふ。最後には、会場に向かつて、今までの話の内容を後一分でまとめるので、せめて一分間だけ静かに聞いてほしい。と懇願したが、とうとう最後まで静かにならなかつた。いったい、日本の若者は何故こうなつてしまつたのだろうか。何故成人の仲間として、自分達のために祝福し、講演してくれる教授の話に、静かに耳を傾けることができないのだろうか。

最近私自身が大変驚かされたことに、山の手線の駅売店で週刊誌を購入し立ち読みしているとき、いきなり週刊誌を遠くにはじき飛ばされてしまつた。その時の若者は、急いでいるとはいへ、何も言わずに行つてしまつたのである。私は、何も邪魔になる様に立つていた訳ではない。そこで、「ごめんなさい」の挨拶があつてもよいのではないだろうか。次に校長室で、講師の採用の面接に来た初対面の若者に、私自身が起立をして名刺を差し出した。挨拶をして下ろしたまま受け取つたのである。さすがに私も場面が場面に、注意をする羽目になつてしまつた。こうした風潮が何故生じてしまつたのだろうか。最近では「日本が世界で一番モラル感覚、正義感のない国」として指摘された林道義氏（東京女子大学教授）や「日本の教育荒廃の元凶は親と日教組にある」とし「ジャリスト櫻井よしこさん、その他同内容の文章が新聞等マスコミでも目に今く様になつた。これは、様に今日の日本の教育の有り方を憂ふものである。和田征士先生の『心の教育、92の提言』の中に、(日本の規範意識とモラルの低下)として、日本青少年研究所が行つた日本と他国の高校生規範意識を比較した調査が載つてゐる。その調査によると、日本の高校生の規範意識のきわめて低いのに驚かされる。

○先生に反抗すること
日本(79%)中国(19%)アメリカ(16%)
○親に反抗すること
日本(85%)アメリカ(16%)中国(15%)
○学校を休むこと
日本(65%)アメリカ(22%)中国(10%)
わが国に於ける高校生の意識は、この他の項目も含めて、「本人の自由」と答え、集団の規律の必要性を無視した行動に憂慮しておられる。林教授は、こうした「何でも自由だ」という若者の態度を戒めるのに、次の様に述べておられる。例へば、「覚醒剤を使うことをどう思うか」に対する高校生の60%が「本人の自由」だと答へる。それが社会にどう影響を与えるか、蔓延すると日本はどうなるかという問題の立て方をしなれ。われわれ教師は、こうした悪い意味での個人主義に對して、個人が自由でも、その結果他人に對してはどうかという問題の立て方を、生徒に示す姿勢が必要なのである。

(二) 規範意識の育たない風潮
戦後の日教組教育は、子供たちに自由と権利と平等を説き続けてきた。明らかに、これが何時の間にか教育現場における基本的な価値観の誤解を生じさせたのである。本来、学校という所では、人間として平等であつても教えらるという点では、教師と生徒とは平等ではないはずなのに、親も子も、教師も生徒も対等なのがデモクラシーだと解釈されてしまつたのである。余談だが、大変滑稽なことに、それが教壇を取り払い、物理的にとも教師が生徒と同じ立場に立つという全くナンセンスなことが、現実には義務教育の現場で行なわれているという事に驚いてしまふ。はき違えた自由と権利について、櫻井さんは、次の様な例を取り上げてゐる。○授業中の私語、歩き回り、騒ぐ生徒に「うるさいから外に出て立つていろなんて言えない。それは子供には授業を聞く権利があるから。」

実際は、騒いでゐる生徒は、授業を聞く権利を放棄しているうちに、他の生徒の権利まで侵害しているのだ。○すぐに親からの抗議親の目が鋭く、すぐに教育委員会等に通報されるので、先生は、生徒に気に入られようと宿題を軽くし、決して怒らないなど、徹底的に迎合する。さらに、生意気な生徒は、指導中余りにも横柄な態度をとるので、ついに先生が生徒を殴つてしまふと、生徒は即ポケットから携帯電話を出し、教育委員会に○○先生から体罰を受けたと報告。○戦後50年間、特に最近の10年間、生徒の自由と人権が叫ばれた時代はない。生徒には、自由と権利がある。だから、遅刻する権利、宿題や掃除をしない自由もあると言ひ出す。先生も同じ人間だから、先生の言うことは必ずしも聞かなくていい。それを親やマスコミも後押しする。(三) それでは教師は今何をすべきか戦後の誤つた民主主義的教育理念は、教師の権威までを失墜させ、自由放任的教育理論を植へてしまつたのである。こういつた中で教育が、結果的に冒険の成人式でのマナーの悪い若者を育てたのであるから、明らかにこれは、日本の教育の敗北、学校の敗北、教師の怠慢の何ものでもない。生徒を指導するに当たつては、鉄は熱いうちに鍛えよ、の格言通り、純粋な気持ちを失わない若者のうちに鍛練すべきだし、事をなすには、適切な時機を失してはいけなないのである。最も大事なことは、その教師の最初の授業への取り組み方で、生徒は、その先生が厳しいか、そうでないかを、評価するということである。今問題になつてゐる小学校の学級崩壊の問題でも、果たして児童生徒が、入学時からその様な行動をとつたのであろうか。それは、教師としての適性が問われているのであつて、高校生でも普段少々うるさくても注意しなかつたり、寝てゐる生徒を起こさうとしない教師が、ある日突然大声で生徒を怒鳴つてみても、生徒は言うことを聞かないのは当然である。この様に、教育は最初が肝心なのである。やはり、こういった規範意識の低い風潮は、戦後教育のはき違えた自由と権利が、教師を消極的にし、学級崩壊にまで至らしめたのである。もうこうなつたら、いつまでも、親が悪いとか、戦後の教育が悪いとか、教師の怠慢だとか言つてゐる場合ではない。小、中、高、大学の教育現場に於いて、一人ひとりの教師が理屈抜きに悪いものは悪いと、その場その場で自らの権威をもつて、善悪の基準や社会生活のルールに従ふことなどを教へなければならぬ。生まれつき道徳を知る者は上、学んで知る者はその次、苦しんで学ぶ者はまたその次、そして苦しみが学ばうとならない者は、最下等の人間である。(論語)

稻門俳壇・歌壇

塩見之一

初詣 香取の森の 杉を愛で

敷石に 震るる 音の 澄みてあり

梅が香を こわさぬように 酒をくむ

初詣 武神の杜の たたずまい 命惜しまぬ 昔を想う

粉雪の 白き点描たち まちに 湯き固まる 烟を覆えり

秋やかに 夜陰に 香る梅が枝 熱海の春の 知らせ艶やか